

高御座安麻能日繼登須賣呂伎能可未美許登能伎己之乎須久爾能麻保良爾山乎之毛佐波爾
 於保美等百鳥能使居氏奈久許惠春佐禮波伎吉能可奈之母伊豆禮乎可和枳氏之努波無宇能花
 乃佐久月多氏婆米都良之久鳴保等登藝須安夜女具佐珠奴久麻泥爾比流久良之欲和多之伎氣
 騰伎久其等爾許已呂宇吳枳氏宇知奈氣伎安波禮能登里等伊波奴登枳奈思略

右四首十日元年五月天平感寶大伴宿禰家持作之

〔類聚國史帝王三十二〕延曆十五年四月丙寅曲宴口庭酒酣上武乃歌曰氣左能阿沙氣奈呼登以非都

留保登登擬須伊萬毛奈可奴加比登能綺久倍久留郭公今

〔類聚國史帝王三十一〕弘仁四年四月甲辰幸皇太弟和淳南池命文人賦詩右大臣從二位藤原朝臣園人

上歌曰祢布能比乃伊介能保度理爾保止度支須多比良波知與止那久波企企都夜天皇和曰保度

止伎須那久已惠企介波宇多奴志度度毛爾千世爾度和禮母企企多理大臣儼踏雅樂寮奏樂賜五

位以上衣被及諸王藤氏六位已下并文人等綿各有差

〔古今和歌集夏三〕はやくすみける所にて郭公のなきけるをきてよめる たゝみね

むかしべや今も戀しき時鳥故郷にしも鳴てきつらん

〔古今和歌集佛十九〕題しらす 藤原敏行朝臣

いくばくのたをつくれればか郭公しでのたをさを朝なくよぶ

〔八代集抄古今集十九〕郭公は去での山より来て農をすむる故に去でのたをさとい入り

略○中 但去での田長を朝なくよぶといふは去でのたをさとは郭公にはあらで別の物とき

こえたりいかでみづからの名をよぶべき是迄顯注伊物に名のみたつ去でのたをさはけさ

ぞなく此去でのたをさは郭公也略此いくばくの歌もおなじ心にや去かれば去でのたを

さとは郭公の異名にて賤の田長をよぶとは只賤の事をいふなるべし